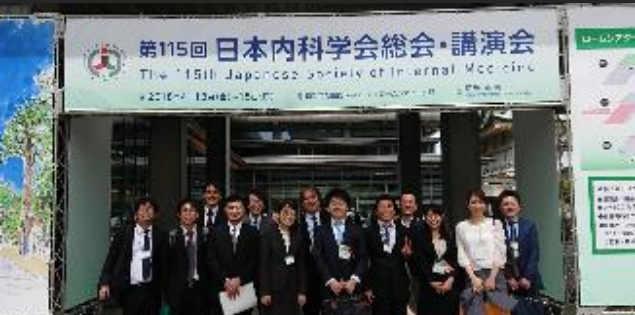


宮崎大学医学部附属病院は
若手医師を応援します。



宮崎大学医学部附属病院 基本領域専門研修

- | | | |
|--------------|---------|---------|
| ① 内科 | ② 小児科 | ③ 皮膚科 |
| ④ 精神科 | ⑤ 外科 | ⑥ 整形外科 |
| ⑦ 産婦人科 | ⑧ 眼科 | ⑨ 耳鼻咽喉科 |
| ⑩ 泌尿器科 | ⑪ 脳神経外科 | |
| ⑫ 放射線科 | ⑬ 麻酔科 | ⑭ 病理診断科 |
| ⑮ 救急科 | ⑯ 形成外科 | |
| ⑰ リハビリテーション科 | ⑱ 総合診療科 | |



内 科

宮崎大学内科専門医育成プログラムは、大学病院を基幹病院として県立病院など県内18の連携施設と協力して内科専門医を育成すべく、初期臨床研修を修了後に本プログラム専門研修施設群にて豊富な臨床経験を持つ指導医の元で3年間の内科領域全般にわたる研修をしていただきます。その3年間で標準的かつ全人的な内科的医療の実践必要な知識と技能を習得していただき、終了時点（卒後5年終了）で新内科専門医の受験資格が得られます。内科専門医育成のコースとしては3つ（内科基本、サブスペシャリティー重点、内科・サブスペシャリティー混合）準備しており、どの時点からサブスペシャリティーの研修を開始するかが異なりますが、多くの先生は卒後7年終了時点でサブスペシャリティーの専門医試験の受験資格が得られます。このサブスペシャリティー専門医試験を受験できるタイミングは、新内科専門医制度の開始前と変わっていないのが事実です。

宮崎大学では、第1内科、第2内科、膠原病・感染症内科、第3内科、消化器内科で内科研修プログラムに記載されている消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症の領域を担当しています。また、救急については各診療科や救命救急科で管理されており、宮崎大学では内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。各科研修中の学会発表も積極的に勧めており、優秀演題賞などを受賞される先生も多くみられます。

宮崎大学には各診療分野のスペシャリストが多く在籍しています。宮崎ではまだ不十分な治療しか受けていない（受けられない）症例がまだまだ多いのも実情です。宮崎で内科全般、そしてサブスペシャルティを共に学び、新たな若い力で宮崎の医療レベルアップを共に目指しましょう！

統括責任者：中里雅光（nakazato@med.miyazaki-u.ac.jp）

担当：塩見一剛（naika_senmon@med.mkiyazaki-u.ac.jp）

小児科

宮崎大学医学部附属病院小児科専門研修プログラムは、大学病院を基幹病院として宮崎県中央部（県立宮崎病院）から県西南部（都城医師会病院、都城医療センター）、県南部（県立日南病院）にわたる連携施設、関連施設で構成されています。

研修1年目は大学病院で研修を開始し、小児科の基本的な考え方や手技に加えて血液腫瘍疾患・感染免疫膠原病疾患・内分泌代謝疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経筋疾患・新生児などの専門領域の担当医として研修します。2年目以降は県立宮崎病院で新生児を含む小児のあらゆる領域の担当医として1年間研修し、都城市郡医師会病院、都城医療センター、県立日南病院ではそれぞれ6か月間から1年間地域医療を含む小児急性疾患や慢性疾患の診断治療や地域医療（健診や予防接種など）に従事し、さらに小児科総合医としての実践力を高めます。

専門医取得後は小児領域のサブスペシャリティの選択を行いますが、希望する場合には国内・国外留学や大学院へ進学することも可能です。新分野の開拓として消化器、小児精神、アレルギーなどの国内留学先との提携の話もまとまっています。また、当教室では女性医師のキャリアアップ支援のために、出産や子育てに合わせて柔軟な勤務形態の導入も積極的に行っており、女性医師も働きやすい環境の整備に力を入れています。

最後に、当教室は盛武教授のもと女性医師、若手医師が多くとても活気のある教室です。宮崎大学のスローガンである「世界を視野に地域からはじめよう」を実現すべく、教室員全員で小児医療に取り組んでいます。小児医療に興味のある先生の連絡をお待ちしています。

担当：此元

連絡先：konomoto@med.miyazaki-u.ac.jp,
shounika_senmoni@med.miyazaki-u.ac.jp

皮膚科

皮膚科は、新生児から高齢者まで、幅広い年齢層の患者を対象とし、アトピー性 皮膚炎や、薬疹といった薬物治療中心の疾患から、熱傷や皮膚がんといった外科的治療が必要なもので守備範囲とすることが大きな魅力です。

現在、宮崎県の皮膚科専門医は42名、人口10万人あたり3.5人です。福岡県の5.1人に比べまだまだ宮崎県は皮膚科専門医が不足しています。宮崎大学医学部附属病院の皮膚科は、宮崎県全域から“最後の砦”として重症薬疹、熱傷、皮膚がんなど重症患者が紹介されてきます。修練期間中に一次から三次にあたる皮膚疾患をここ宮崎で経験できることは、専攻医にとって魅力があると考えます。

私たちとここ宮崎で、皮膚科学を極めたい仲間を歓迎いたします。

【連絡先】

電話：0985-85-2967（担当：根本 理恵子）

メールアドレス：derma@med.miyazaki-u.ac.jp

精神科

宮崎大学精神科医局長の船橋です。自分がどのように精神科医として、精神保健指定医として、精神科専門医として育てられたのだろうかと、振り返りました。宮崎大学精神科の医師養成理念はどのようになっているでしょう。自分のことで恐縮ですが、参考になるでしょうか。

<1～4年目>

「精神症状に見える病態の背景に、身体疾患や薬物の影響を見逃すな」と習いました。まずは入院患者をじっくり診る、今で言う総合診療的なアプローチを叩き込まれたのです。患者さんと御家族からの情報を収集し、サマリは患者さんの生活が浮かび上がるようにと指導され、時に思い入れがありすぎて長いと怒られました（笑）。指定医の症例はすぐに集まり、最短で申請しています。この時期、「なぜ精神病性うつ病は治り方が違うんだろう」「統合失調症の不器用さはなんだろう」と興味を持ち、データを取っています。

<5～9年目>

外来と緩和ケアの担当になります。とにかくたくさん症例を経験しました。責任が重くなり、うまくいかない症例もありましたが、先輩方のアドバイスで何とか対応しています。駆け出しの頃に集めていたデータを集計し、精神病性うつ病ではイタリアへの出張を経験し、統合失調症の認知機能のデータで賞をいただきました。もちろん専門医・指定医取得しています。

<10～14年目>

大学院（夜間）に入学し、精神科と神経生物学教室の御指導で、痒みの研究で博士号をいただきました。タフな中堅どころということでしょうか、東日本大震災の支援に派遣されました。緩和ケアでは学会から教育奨励賞をいただきました。最近は若手の先生にパワーがあるので、自分は研究で成果を出そうとあがいているところです。

興味のある方からのご連絡、お待ちしております！

担当：船橋 英樹 e-mail：psychweb@med.miyazaki-u.ac.jp

TEL：0985-85-2969 FAX：0985-85-5475

外 科

我々は、「MIYAZAKI STRONG」を合い言葉に宮崎の外科学を発展させ、患者さんに安全な手術が宮崎で提供できるように講座一丸となって頑張っています。

現在、宮崎大学の外科は外科学講座に統一され、1) 肝胆膵外科、2) 消化管・内分泌・小児外科、3) 呼吸器・乳腺外科、4) 心臓血管外科、5) 形成外科の各分野があり、各分野の先生が若い外科医の育成に力を注いでいます。当講座での外科専門医習得に向けての行程は下記（資料1、2）に記してありますので参照してください。

また、ホームページには、宮崎で外科医になるメリット、皆さんが疑問に思う点（都会や他県の症例数の多い施設と比べ宮崎では不利でしょうか？大学病院の医局や門会に入会する意義とメリットは？等）に対して我々なりの答えが掲載されています。

一度我々の医局をのぞきに来ませんか？ そして宮崎で外科医になりましょう。

プログラム責任者 富田 雅樹

整形外科

- 本学（大学病院）の特徴は、手術件数もトップクラスであり、上肢・脊椎・骨盤・下肢の様々な疾患（外傷、関節症、スポーツ、関節リウマチ、骨粗鬆症、小児、腫瘍など）を研修できることです。
- 1年目は大学病院で研修します。2～3年目は地域中核病院または宮崎市内の連携病院で主に一般整形外科・外傷を学び外来～手術～後療法の主治医となります。
- 3年9か月の研修後に、大学院希望者は大学院コースへ、subspeciality希望者は大学を含む連携病院での研修が選択できます。
- 専門医取得後、海外・国内留学などを推奨しています。また、スポーツ医学における帯同ドクター・スポーツ現場での活動や日本スポーツ協会公認スポーツドクターの取得も推奨しています。
- 女性医師における職務体系は、公務員と同等以上の産休・育休など取得でき、子育てしやすい環境になっています。
- 宮崎県は各プロのスポーツ選手がキャンプに訪れることや運動施設が多数あることはご存知でしょう。当科では、なでしこジャパンやラグビーワールドカップ、国体の帯同ドクターの派遣、各種大会のメディカルチェック・サポートも行っています。
- 整形外科（運動器疾患）に興味のある方は、是非私たちと一緒に学びませんか。見学やご相談などいつでもご連絡ください。

整形外科 医局長 濱中秀昭

E-mail: seikei@med.miyazaki-u.ac.jp

TEL: 0985-85-0986

産婦人科

初期研修を終え、医師としてスケールアップしたと実感する先生が多いことと思います。その経験を是非、宮崎の産婦人科医療に生かしてみませんか。

宮崎大学の産婦人科研修プログラムでは“実臨床に強い医師”の人材育成に取り組んでいます。宮崎県内外9施設*が当プログラムに参加しています。その施設をローテーションすることで、周産期医療を中心に、婦人科、不妊症治療（一次施設での経験が可能）、腹腔鏡まで幅広く経験できます。例年、少数精鋭での研修となり忙しい反面、経験豊富なスタッフが各施設には揃っており多くの手術、分娩が経験可能で短期間にバランスのとれた臨床力が身につきます。またネット回線を利用したカンファレンスを週1回開催し、多施設（大阪、千葉、鹿児島、宮崎県内）の11施設との合同の症例検討、情報交換を行い最先端の知見を得ることができます。

研究面では積極的に学会に参加、発表を行い、3年以内に専攻医申請に必要な論文の作成を目指します。産婦人科の専攻医取得後は各個人の希望に基づきサブスペシャリティ取得し、さらに米国（現在1人留学中）、カナダへの留学も可能です。

この臨床、研究共に強い“アットホームな熱い宮崎大学産婦人科”で症例について一緒に悩み、考え、調べ、治療して臨床の喜びを先生方と分かち合える日が来ること、心待ちにしています！

産婦人科 医局長 土井 宏太郎

E-mail: koutarou_doi@med.miyazaki-u.ac.jp

眼 科

- あなたの力を必要としています。
 - 視覚は眼科医でなければケアできません。
 - 視覚に何らかの異常を持ち、困っているかた、多数です。
 - 適切にケアができる眼科医が不足しています。
 - われわれは、育てます。
-
- 芸術的に美しい白内障手術、
 - 輝かしい子供の眼を守ること、
 - 理論立てた緑内障手術、
 - 清らかな眼底の保存維持、
 - シャーロック・ホームズのような神経眼科疾患の推理解決、
などができるようになります。
-
- 専門医の資格はとれて当然、保証します。
 - あなたのライフサイクルや目標に合わせたプログラムと一緒に考えましょう。
-
- 視覚は生きていく上で必須の感覚です。
 - 一緒にこの美しく、繊細で、奥深い、視覚を守る仕事を楽しくしませんか？

担当：中馬 秀樹

TEL：0985-85-2806 FAX：0985-84-2065

e-mail：hchuman@med.miyazaki-u.ac.jp

耳鼻咽喉科

医師とくに外科系医師が1人前になるために不可欠なのが「良き師」であり「良き先輩」です。自分や自分の家族、患者を託すことができる「良き指導者」のことを英語で「Mentor」と言いますので、我々のプログラムをMENTORプログラム（Miyazaki Ear-Nose-Throat Oriented Residency Program）と名付けました。本研修プログラム「MENTOR」のもとで育まれた専攻医が、専門医、さらには指導医(mentor)となって新たな専攻医を迎え、「宮崎ブランド」の耳鼻咽喉科専門医療技術を発展的に継承していく場になることを目指しています。

現在は宮崎県内の基幹病院だけでなく、東京には慈恵医大耳鼻咽喉科、沖縄には琉球大学耳鼻咽喉頭頸部外科での研修が可能なプログラムに再編しました。勝手知ったる母校での専門研修、もう一度考えてみて下さい。

◆耳鼻咽喉科の特徴

五感、すなわち視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚のうち視覚を除いて耳鼻咽喉科の守備範囲です。耳鼻咽喉科は人間が人間らしく生きる上でもっとも基本的かつ重要な機能を扱っています。扱う疾患、手技が多岐にわたるため、個々の興味、能力、体力などに応じて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の中で、自分にふさわしい分野（サブスペシャリティー）を見つけることができます。

◆女性医師について

日本耳鼻咽喉科学会会員の約20%は女性医師です。さらに女性医師は年々増加傾向にあります。小児難聴をはじめ従来から女性医師が活躍してきた領域も多く、高い専門性を保ちながら医療の第一線で活動を継続している女性医師が多いのも耳鼻咽喉科の特徴です。

◆耳鼻咽喉科をお勧めする理由

- ・ 内科系、外科系どちらもできます
- ・ 新生児からお年寄りまで診ます
- ・ ステップアップが実感できます
- ・ 迷路にはまった専攻医を救える人工内耳の名医がいます
- ・ 決して迷医にはさせません

相談先：宮崎大学医学部耳鼻咽喉頭頸部外科 東野哲也

otorhino@med.miyazaki-u.ac.jp

泌尿器科

皆さん！！

2年間の研修はどうでしたか？

泌尿器科を考えている先生は

是非とも「宮崎大学」のプログラムを検討してください！

- *がん診療だけでなく排尿障害などのQOL疾患、結石、感染症、小児疾患など幅広い分野の診療を行い、実践を通して学ぶことができます。
- *大学病院を中心に各関連施設での指導体制も整っているので安心です。
- *希望に応じて国内留学が可能です。
- *地方ならではの、1人あたりの経験できる症例が多く様々な症例を1つの施設で経験できます。
- *特に腹腔鏡手術、内視鏡手術の教育に力をいれています。
- *とにかく「明るい医局」「働きやすい環境」を追求します。
- *「ゴルフ好き」「サーフィン好き」「カラオケ好き」も大歓迎です！
- *ゆりかごから墓場まで一生診れるのが泌尿器科です。

皆さんの参加を待ってます！！

tkampro@med.miyazaki-u.ac.jp (賀本)

toshio_kamimura@med.miyazaki-u.ac.jp (上村)

脳神経外科

脳神経外科学領域でも新専門医制度が導入されましたが、今までの専門医制度と大きく変更になった点はありません。これまでに当医局からも多くの脳神経外科専門医が誕生し全国で活躍しております。田舎の大学だからと言って診療レベルが落ちているとは思いません。安心して青春時代を過ごした宮崎大学での研修をご考慮下さい。

当医局の特徴として

- ・夏休み（最長2週間）と冬休み（最長1週間）は必ず確保します。
- ・宮崎県内の脳神経外科専門医数が少ないため、一人当たりの手術経験症例数が多く、早く手技が身に付きます。
- ・脳神経血管内治療専門医や脊髄外科専門医などサブスペシャリティの資格も問題なく取得できます。
- ・希望者には大学院進学や国内・海外留学も助言・サポート致します。

一人でも多くの方と一緒に仕事できることを楽しみにしております

連絡先

宮崎大学 医学部臨床神経科学講座脳神経外科学分野

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200

電話：0985-85-3128 FAX：0985-84-4571

担当：大田 元（医局長）

e-mail: haohta@med.miyazaki-u.ac.jp

放射線科

本診療科の特徴

放射線科は内科系の診療科で、特定の臓器、疾患に偏ることなく、さまざまな領域を画像を用いて診断したり、画像誘導下治療（IVR）、RI物質を用いた内照射治療、高エネルギーX線を用いた放射線治療にて低侵襲治療（切らずに治す治療）を行っています。画像診断では最先端のCT、MRI、PET機器を用いて現代の高度な医療を支えています。IVRは救急医療、癌治療のほか外科治療にも関わります。

放射線科専門研修プログラム

日本医学放射線学会が認定し日本専門医機構が承認した宮崎大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラムは、3年以上の専門研修により、放射線科領域における幅広い知識と錬磨された技能、ならびに医師としての高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナルリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医を教育します。放射線科専門医資格を取得後は、放射線診断専門医、または放射線治療専門医の資格取得に向けて画像診断・核医学・IVR、または放射線治療をローテートすることによって専門性の高い十分な知識と技能を得ることができます。

本プログラムは、宮崎大学医学部附属病院放射線科を専門研修基幹施設として、宮崎県立宮崎病院放射線科、宮崎県立日南病院放射線科、都城市郡医師会病院放射線科、藤元総合病院放射線科を専門研修連携施設、都城健康サービスセンターを専門研修関連施設として、各施設の教育責任者が直接指導を行います。

本プログラムの特徴

国内で最もレベルの高い放射線診断（画像診断・核医学・IVR）、放射線治療のトレーニングを受けることができます。

宮崎大学病院には最先端の画像機器・IVR装置が導入されており、最先端の画像診断・IVR診療を体験することができます。

全国的にも一流の診療レベルを誇る宮崎県立宮崎病院、都城市郡医師会病院などをローテートすることにより、救急疾患や日常よく遭遇する疾患の画像診断、IVR及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培えます。また各専門医から、基本的な知識・技能から最先端の診断・治療について直接指導を受けることが可能です。

研修中は大学では医員となり、関連病院に於いては常勤のスタッフとして勤務可能です。

初期研修の先生へのメッセージ

現在の高度化した医療において、放射線科医は病気を正確に診断したり、治療したりする上で非常に重要な役割を担っています。米国では放射線科医は“Doctor's doctor”と呼ばれています。当院には最先端の画像診断機器が導入されており、全国でもトップクラスの設備で研修ができます。また、当科では「切らずに治す」をモットーに患者さんにやさしいIVRと放射線治療を担っています。このように全身の領域の診断と治療を幅広くカバーしていることから、本プログラム終了後に自分のやりたい仕事を必ず見つけることができます。

教育においては熟練放射線科医によるマンツーマンの指導、画像カンファレンス、国内外からの講師招聘など充実した教育体制を整備しています。最近は遠隔画像診断が発達しており、放射線科医が読影することで地域医療に貢献しています。当科ではOnly oneの情熱ある研修医を広く募集いたします。

連絡先

宮崎大学医学部放射線医学教室 医局長 陣内 崇

Tel: 0985-85-2807

e-mail: houshasenka@med.miyazaki-u.ac.jp

麻酔科

宮崎での麻酔科医の必要度は群を抜いています。麻酔科医がいなければ手術ができません。つまり、外科医が安全に安心して手術を行う環境を整えるには、麻酔科医が必要不可欠なのです。麻酔科医の存在は、はっきり言って地味です。しかしながら、その存在意義は病院にとって計り切れません。そのことが理解できているのは、病院のなかでも一部の管理職の皆様だけかもしれません。麻酔科医が撤退すると病院機能が損なわれるため、管理者は戦々恐々となります。なにより、麻酔科医は、患者の命を守ることに徹しておりますので、手術を必要とする患者さんにとって、大変頼りにされます。まるで麻酔科医は守護神のようです。宮崎大学麻酔科は、宮崎県下の主要病院を傘下に収め、県下の手術患者の大半を管理しております。しかしながら、いまだに十分な支援を行っていない主要病院も数か所あり、早い段階での麻酔科医の派遣体制の充実が切望されています。

当教室では、後期研修のはじめ2年間は大学にて麻酔研修を行います。基本的な麻酔症例から、2年目には食道がんや心臓手術などの高度な手術の麻酔管理を行い、麻酔全般を満遍なくこなすことで、麻酔科医として一通り完成します。その後1～2年は関連病院に出向し、緊急手術をはじめとして第一線で様々な症例を経験することで、独り立ちできる自信を身に着けます。4～5年目は、大学にてペインクリニックや集中治療を研修する傍ら、麻酔科専門医試験を受験します。その後は、麻酔の指導医を目指して麻酔を極めるなり、集中治療やペインクリニックの専門医を目指します。また大学院に入学し、学位取得を目指して研究に勤しむこともできます。その先には、夢の海外留学も待っています。現在、4名が大学院に入学しており、1名がオーストラリアのメルボルン大学に留学中です。麻酔科医として大成するには、麻酔科専門医に加えて、集中治療やペインクリニックのサブスペシャリティの専門医の取得や学位の取得は必須と考えておりますので、積極的な支援は惜しみません。

医局員は、明るく朗らかで、いい人ばかりです。いわゆるブラックな人はいませんので、安心して仕事に打ち込むことができます。麻酔科医としての成長に終わりはありません。麻酔科は、クオリティーオブライフを保ちつつ自己研鑽に努めたい方には是非ともお勧めできる診療科です。心より、お待ちしております。

専門研修プログラム統括責任者：

恒吉 勇男 e-mail : isao45@med.miyazaki-u.ac.jp

TEL : 0985-85-2970

病理診断科

病理医は“Doctor’s doctor”ともよばれます。

病理診断科では、色々な診療科のわくを超えて疾患を考えることができます。宮崎大学の病理は、人数は多くありませんが、少数精鋭の先輩方が指導します。宮崎大学病理診断科では、2つの講座、病理部で協力して診断にあたっていますが、他の大学や施設と違い、両講座、病理部の垣根がなく、ガラス標本を持って自由に意見を聞くことが特徴で、和気あいあいと仕事をしています。またそれぞれサブスペシャル領域を持って診断していますが、基本的には全ての診療科の症例を全員で担当しますので、専門医を目指す先生もめずらしい疾患から、よくみる疾患まで勉強することができます。さらに宮崎県内の全ての病理診断科と協力して、専門医を育てる体制をとっており、希望があれば大学病院以外の施設でも勉強をすることが可能です。

病理診断は、治療の方針を決定する要であり、責任は重大ですが、そのぶんやりがいもあります。宮崎で“Doctor’s doctor”を目指してみませんか。

プログラム統括責任者 浅田 祐士郎

連絡先：病理診断科・病理部 佐藤 勇一郎

電話：0985-85-1873

e-mail: yuichiro_sato@med.miyazaki-u.ac.jp

救急科

2年目の研修医の皆さんこんにちは。宮崎大学救命救急センター教育医長の齋藤です。さて、初期研修は順調に過ごせているでしょうか。自分の思い描いていた医師像に近づけているでしょうか。どのような研修先を選んでも自分次第ですので、研修に励んでください。さて、皆さんは救急医と聞いて何をイメージするでしょうか。かの有名なコードブルーの山P。研修医のバイブルをたくさん執筆されている林先生や寺澤先生。災害の現場で活躍するDMAT隊員。救急といっても場所によってやっていることは様々です。宮崎大学救命救急センターのプログラムでは『地域で最強の救急医』を養成するために、当センター開設2年目から後期研修医の募集をはじめました。現在までに15名の新規入局者があり、それぞれ最強の救急医になるべく研鑽を積んでるところです。入局1年目は大学病院で集中治療型救急医療の基本を徹底的に鍛えます。全国でも珍しく、当センターでは入局1年目の先生がすべての患者の主治医となり、指導医と日々ディスカッションしながら治療方針を決定していきます。そのため非常に厳しい環境に身を置くこととなりますが、この1年を終えた後期研修医は、その後地域の救急医療の中核病院で即戦力として働き始めます。この一年を終えた時の自らの成長に驚くことも多々あるくらい成長できます。そして2年目で地域の救急医療の最前線で働き、その後は各専攻医の希望により、研修先を選んで3年間のプログラムを終了することになります。

当プログラムではドクターヘリ、ドクターカー、外来診療、病棟マネジメント、ER型救急、災害医療、研修医教育、研究など救急医療に関連するありとあらゆる領域を学ぶことができる、宮崎県唯一の救急科プログラムです。1分1秒を争う重症患者をヘリで診療し、外来で蘇生して、病棟で退院に向けた治療をするというすべての過程をチームの中心として動かしていく。そのために必要な知識、技術を十分に指導できる体制が整っています。またプログラムが終了すればそれぞれの希望に応じて、県内、県外、国外の他科や他院で研鑽を積むこともできます。都会の施設に負けないだけの環境が整った当センターでぜひ一緒に“FOR MIYAZAKI”の担い手になってみませんか。見学や相談は随時受け付けておりますので、いつでもご連絡ください。

文責：齋藤勝俊 Mail：katsutoshi_saito@med.miyazaki-u.ac.jp

（宮崎大学医学部付属病院救命救急センター 教育医長）

形成外科

宮崎大学形成外科で形成外科専門医を取得しよう！

宮崎県は形成外科専門医が非常に少ない県となっています。

形成外科の認知度が低いだけでニーズは溢れています。

現時点で、宮崎大学形成外科での研修プログラムはありませんが、東京女子医科大学形成外科の研修プログラムにおいて、宮崎大学形成外科は連携施設となっているため、宮崎でも専門医は取得できます。近い将来、宮崎大学形成外科を基幹病院とした研修プログラムを配信する予定です。

形成外科に興味のある方、形成外科医を目指したい方は、

是非、形成外科医局0985-85-9786もしくは伊東（4580）までご連絡ください。

リハビリテーション科

- ほとんどすべての難治症例が宮崎大学医学部附属病院に搬送されます。従って、基幹病院である宮崎大学医学部附属病院で研修することは、多くの難治症例を経験することができます。専攻医数も少ないので丁寧な指導が期待できます。
- 一人あたりの専攻医が受け持たせてもらえる患者の数や、主体となって実施できる検査などが格段に多くなります。
- 大都市の病院では専門分野は細分化する傾向がありますが、地方都市では多くの専門分野を総合的に研修できます。
- 大学病院での研修ではベッドフリー、急変対応も少ないため、“子育て医師”に優しい職場です。
- 女性医師における職務体系は、公務員と同等以上の産休・育休など取得でき、子育てしやすい環境になっています。

担当：鳥取部 光司 e-mail : rehabili@med.miyazaki-u.ac.jp

TEL :0985-85-0986 FAX : 0985-84-2931

総合診療科

【特徴】総合診療プログラムは、我が国で19番目の専門領域として平成30年に認められた最も新しい分野の専門医です。これからの時代を支えるジェネラリストとして、また世界標準のヘルスケアの基盤を支える医師としてとても期待されております。2015年に当プログラムは開始して今年初めての修了生を出しました。その後も毎年一人は参入してくれています。研修は3年間で最初に総合診療I及びIIとして18ヶ月（串間市民病院・県立宮崎病院・田野病院・中部病院・高千穂町立病院のうちいずれか）、12ヶ月内科研修（県立日南病院）、小児科3ヶ月（県立日南病院・高千穂町立病院）、救急科3ヶ月（大学または都城市郡医師会病院）からなります。Resident Dayとよばれる定期的な勉強会、レクチャー、WEB会議、医学生も交えた春夏秋冬セミナーも開催して学びを支援します。経験したことをポートフォリオとして振り返ることも支援しています。専門医取得後もスタッフとしての道や開業、地域病院でのホスピタリスト、地域の家庭医として活躍できるように支援します。熱いパッションを持った指導医と先輩レジデントが待っています。

【魅力】幅広い世代を診る、継続的に診る、主訴をもとにして断らない、勉強熱心な人にぴったり、EBMを実践できる、宮崎に今もっとも必要とされるタイプの医療人である、在宅医療もがつつりできる、グローバルに学ぶことができる（タイのPSU家庭医療学講座のレジデント受け入れ・米国OHSU家庭医療学講座との交流など）、何より楽しい。

【教員よりひとこと】一緒に作り上げましょう。ともに働きましょう。後輩を教える、ともに学ぶ喜びをしっかりと宮崎に普及して行きましょう。

連絡先：吉村 学 manabu_yoshimura@med.miyazaki-u.ac.jp



串間市民病院 総合内科
松田 俊太郎 氏



日南市立中部病院 地域医療科・内科
桐ヶ谷 大淳 氏



みやざきで！ はじめよう！

宮崎県での研修は、現場体験を重視し、
教えるというよりも、一緒に学んでいくスタイルです。



百瀬病院
飛松 正樹 氏



宮崎県立日南病院 内科
早川 学 氏